

PF5200 シリーズ
クイックスタートガイド

クイックスタートガイドはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に安全上の説明を読み、十分理解してください。
・本ガイドはいつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。



■対象製品

本ガイドは PF5200 シリーズの PF5240F-48T4XW, PF5240R-48T4XW の 2 モデルの内容について記載しています。

■輸出時の注意

本製品は、外国為替及び外国貿易法に基づくリスト規制の該当貨物ですので、輸出（または非居住者への技術の提供あるいは外国において技術の提供をすることを目的とする取引）を行う場合には、経済産業大臣の輸出許可（または役務取引許可）が必要となります。

また、本製品には米国の輸出関連法令の規制を受ける技術が含まれており、輸出する場合輸出先によっては米国政府の許可が必要です。

■商標一覧

- Ethernet は米国 Xerox Corp. の商品名称です。
- イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- 「プログラマブルフロー」および「ProgrammableFlow」は、日本電気株式会社の登録商標または商標です。
- その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

■クイックスタートガイドはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の説明を読み、十分理解してください。

本ガイドは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

■ご注意

本ガイドの内容については、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されます。

■高調波規制について

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

適合装置：

- PF5240F-48T4XW
- PF5240R-48T4XW

■発行

2011 年 10 月 (初版) NWD-126031-001

■著作権

Copyright (C) 2010-2011, NEC Corporation. All rights reserved.

はじめに

このたびは、プログラマブルフロー・スイッチ PF5200 シリーズをお買い上げいただき、ありがとうございます。本ガイドは、PF5200 シリーズについて、装置の開梱から、基本的な設定を行なうまでの手順について説明しています。また、本装置を安定してお使いいただくために、PF5200 シリーズのマニュアルのご利用方法についても記載しています。

■本ガイドの流れ

機器をセットアップするには、以下の流れで本ガイドを参照してください。

安全にお取り扱いいただくために

- ▼ PF5200 シリーズを安全にお取り扱いいただくための注意事項を記載しています。
本装置をお使いになる前に必ずお読みください。

1章 準備

- ▼ 本装置をお使いいただくために必要なものについて説明します。また、PF5200 シリーズのマニュアル体系や、本ガイドの位置づけについて説明しています。

2章 機器の設置

- ▼ 機器を開梱してから電源を投入するまでの手順について説明しています。

3章 初期導入時に必要な操作

- ▼ 本装置を起動してから、時刻の設定、ユーザ ID の設定、装置管理者モードのパスワード設定など、初期導入時に行う操作について説明しています。

4章 その後の作業

- ▼ 本装置に詳細な設定を行う場合や、運用状態の確認、トラブル発生時に参考するマニュアルについて説明しています。

■対象読者

本ガイドは、PF5200 シリーズの設置や取り扱いを担当する技術者を対象としています。そのため、電気回路や配線およびネットワークに関する知識を持っていることを前提としています。

目次

はじめに	1
安全にお取り扱いいただくために	安全 - 1
1 準備	1
1.1 PF5200 シリーズのマニュアル体系	2
1.2 PF5200 シリーズのマニュアル入手方法	3
1.3 同梱品の確認	4
1.4 必要なものの準備	5
2 機器の設置	7
2.1 機器の設置	8
2.1.1 装置本体の設置	8
2.2 その他の作業	22
3 初期導入時に必要な操作	23
3.1 コマンド入力モードの概要	24
3.2 初期導入時の操作の概要	26
3.3 ログイン	27
3.4 装置管理者モードのパスワード設定	28
3.5 ユーザ ID の追加と「operator」の削除	29
3.6 時刻の設定	30
4 その後の作業	31
4.1 本装置の操作の詳細について	32
4.2 トラブルシュート	33

安全にお取り扱いいただくために

■ PF5200 シリーズを正しく安全にお使いいただくために

- 本マニュアルには、PF5200 シリーズを安全にお使いいただくための注意点を記載しています。ご使用前に本マニュアルを最後までお読みください。
- 本マニュアルはすぐ利用できるよう、お読みになった後は取り出しやすいところに保管してください。
- 操作は、本マニュアルの指示、手順に従って行なってください。
- 装置および本マニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。これを怠ると、人身への傷害や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ご使用の前に

- 表示について

本マニュアルおよび装置への表示では、装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があります。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、装置の損傷または周囲の財物の損害を引き起こす可能性があります。

NOTE

この表示は、人身の安全や装置の損害に関係しない補足説明であることを示しています。

■ 操作や動作は

- 本マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行なわないでください。
装置について何か問題が発生した場合は、電源を切り、電源ケーブルを抜いたあと、保守員をお呼びください。

■ 自分自身でもご注意を

装置や本マニュアルに表示されている注意事項は十分検討されたものです。

それでも予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作にあたっては指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

 **警告**

■万一、異常が発生したときはすぐに装置の電源を切ってください。

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常が発生した場合や、装置の内部に異物や水などが入った場合は、以下の方法で装置の電源を切ってください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

異常発生時の対処方法

異常が発生した装置	対処方法
電源を冗長化していない場合	本装置の電源スイッチを長押し（3秒以上）してスタンバイ状態にした後、コンセントから電源ケーブルを取り外してください。
電源を冗長化している場合	本装置の電源スイッチを長押し（3秒以上）してスタンバイ状態にした、コンセントから本装置に搭載されているすべての電源機構の電源ケーブルを取り外してください。

■異物を入れないでください。

- 装置の入排気孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

■RESETスイッチを押す場合、先の折れやすいものや、虫ピン、クリップなど、中に入って取り出せなくなるようなものは使用しないでください。

- RESETスイッチを押す場合、先の折れやすいものや、虫ピン、クリップなど、中に入って取り出せなくなるようなものは使用しないでください。火災・感電の原因となります。

■改造しないでください。

- 装置を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■衝撃を与えないでください。

- 万一、装置を落としたり部品を破損した場合は、装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いて保守員にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■装置の上に物を置かないでください。

- 装置の上に虫ピン、クリップなどの金属物や花びん、植木鉢など水の入った容器を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■故障 / 障害が発生したときは保守員をお呼びください。

- 故障 / 障害が発生したときは、電源を切り、電源ケーブルを抜いたあと、保守員をお呼びください。

 **警告**

■表示以外の電源で使用しないでください。

- 表示された電源電圧以外で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

■分電盤へ給電される電流容量は、ブレーカの動作電流より大きくなるようにしてください。

- 分電盤へ給電される電流容量は、ブレーカの動作電流より大きくなるようにしてください。分電盤への電流容量がブレーカの動作電流より小さいと、異常時にブレーカが動作せず、火災の原因となることがあります。

■接地を取ってください。

- 必ず接地付きのコンセントを使用してください。接地を取らずに使用すると、感電の原因となると共に、電気的雑音により、障害発生の原因となります。

■電源ケーブルを大切にしてください。

- 電源ケーブルの上に重いものを乗せたり、引っ張ったり、折り曲げたり、加工したりしないでください。電源ケーブルが傷ついて、火災・感電の原因となります。ケーブルの上を敷きものなどでおおうことにより、それに気づかないで重い物を乗せてしまうことがあります。
- 電源ケーブルは付属または指定のものを使用してください。それ以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。また、付属の電源ケーブルを本製品以外で使用しないでください。本製品以外で使用した場合、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルが傷んだら（芯線の露出、断線など）保守員に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源プラグはほこりが付着していない事を確認し、がたつきのないように刃の根元まで確実に差し込んでください。ほこりが付着したり接続が不完全な場合、火災・感電の原因となります。

■タコ足配線はしないでください。

- 同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。タコ足配線は、火災の原因となると共に、電力使用量がオーバーしてブレーカが落ち、ほかの機器にも影響をおぼします。

■電源機構の取り付け、取り外しを行なう場合は電源ケーブルを取り外してください。

- 電源機構の取り付け、取り外しを行なう場合は、電源機構から電源ケーブルを取り外してください。電源ケーブルを接続していると、回路に通電してしまいます。

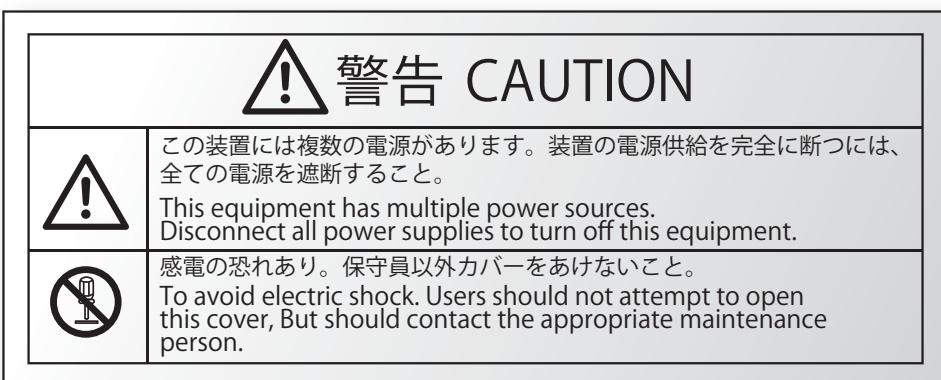
⚠ 注意

■ 不安定な場所に置かないでください。

- 装置をラックに搭載する場合には、装置が安定した状態にあるか十分に確認して作業してください。不安定な状態で作業した場合、落下や転倒によるけがの原因となります。

■ 装置のカバーを外さないでください。

- 装置のカバーを外さないでください。感電の原因となります。装置には以下のラベルを貼り付けています。



■ 入排気孔をふさがないでください。

- 装置の入排気孔をふさがないでください。入排気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。入排気孔から 50mm 以上スペースを空けてください。

■ 髪の毛や物を装置の入排気孔に近づけないでください。

- 装置には冷却用のファンを搭載しています。入排気孔の近くに物を近づけないでください。内部の温度上昇により、故障の原因となるおそれがあります。また、入排気孔の近くに髪の毛や物を近づけないでください。巻き込まれてけがの原因となることがあります。

■ 移動させる場合は、電源機構の取っ手を持たないでください。

- 装置を移動させる場合は、電源機構の取っ手を持たないでください。取っ手が外れて装置が落下し、けがの原因となることがあります。また、変形して、火災・感電の原因となることがあります。

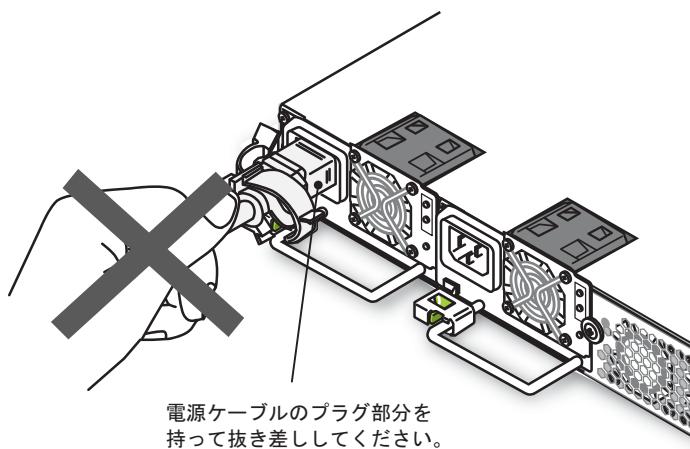
⚠ 注意

■持ち運ぶときのご注意

- 移動させる場合は装置の電源を切り、すべてのケーブル類を装置から外してから行なってください。装置やケーブルが変形したり、傷ついたりして、火災・感電の原因となることがあります。
- 輸送時に積み重ねる場合は、梱包箱に入れてください。装置が変形したり、傷ついたりして、火災・感電の原因となることがあります。

■電源ケーブルを粗雑に扱わないでください。

- 電源ケーブルを熱器具に近づけないでください。ケーブルの被覆がとけて、火災・感電の原因となることがあります。
- AC 電源ケーブルをコンセントに差し込むとき、または抜くときはケーブルのプラグ部分を持って行ってください。ケーブルを引っ張ると断線の原因となります。



■電源機構単体で電源ケーブルを取り付けないでください。

- 電源機構は装置本体に装着してから電源ケーブルを取り付けてください。電源機構単体に電源ケーブルを取り付けてコンセントに挿入すると、電源機構の故障の原因となるだけでなく、火災・感電の原因となることがあります。

■装置の電源を切断する場合は、装置への給電をすべて停止させてください。

- 装置本体の電源スイッチを長押し（3秒以上）しただけでは装置の電源は切断されません。電源を切断する場合は、装置本体の電源スイッチを長押し（3秒以上）してスタンバイ状態にした後、コンセントから電源ケーブルを取り外してください。
- 電源を冗長化している場合は、装置本体の電源スイッチを長押し（3秒以上）してスタンバイ状態にした後、コンセントから本装置に搭載されているすべての電源機構の電源ケーブルを取り外してください。

注意

■ レーザー光に注意してください。

- 本装置ではレーザー光を使用しています（レーザー光は無色透明で目には見えません）。光送受信部を直接のぞかないでください。

■ 湿気やほこりの多いところに置かないでください。

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 低温から高温の場所など温度差が大きい場所へ移動させた場合、表面や内部で結露することがあり、そのまま使用すると火災・感電の原因となります。そのままその場所で数時間放置してから使用してください。

■ 乗ったり、よりかかったり、重い物を置いたりしないでください。

- 装置に乗ったり、よりかかったりしないでください。装置を破損するおそれがあります。また、バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 装置本体の上に 5kg を超える物を置かないでください。装置を破損するおそれがあります。また、バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

■ 装置の内部に手を触れないでください。

- 装置内部に不用意に手を入れないでください。機構部等でけがの原因となることがあります。

■ 電源機構を搭載しないスロットのブランクパネルは取り外さないでください。

- 電源機構を搭載しないスロットのブランクパネルは取り外さないでください。ブランクパネルを取り付けずに取り扱うと、機構部等でけがの原因となることがあります。また、異物などが入った場合、故障の原因となります。

■ 清掃について

- 装置および装置周辺のほこりは、定期的に清掃してください。装置停止の原因となるだけでなく火災・感電の原因となることがあります。

注意

■高温になるところに置かないでください。

- 直射日光が当たる場所やストーブのような熱器具の近くに置くと、部品に悪い影響を与えますので注意してください。

■テレビやラジオを近づけないでください。

- テレビやラジオなどを隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。テレビやラジオに雑音が入った場合は次のようにしてください。
 - ・テレビやラジオからできるだけ離す。
 - ・テレビやラジオのアンテナの向きを変える。
 - ・コンセントを別々にする。

■硫化水素の発生するところや、塩分の多いところに置かないでください。

- 温泉地など、硫化水素の発生するところや、海岸などの塩分の多いところでお使いになると本装置の寿命が短くなるおそれがあります。

■電源ケーブルの取り付け、取り外しは、電源スイッチを長押し（3秒以上）してスタンバイ状態にして行なってください。

- 電源ケーブルの取り付け、取り外しは、装置本体の電源スイッチを長押し（3秒以上）してスタンバイ状態にして行なってください。

■装置の電源を入れたままでファンユニットを交換する場合、制限時間を守ってください。

- 装置の電源を入れたままでファンユニットを交換する場合、取り外してから取り付けるまでを2分以内で行なってください。2分を超えると、装置内部の温度上昇により、障害発生の原因となります。（※25°C環境での交換作業を想定しています。）

注意

■装置設置場所の近傍にコンセントを準備してください。

- 装置設置場所の近傍にコンセントを準備し、そのコンセントには容易にアクセスできるようにしてください。
- コンセントは指定のものを使用してください。それ以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

■メモリカードの取り扱いに注意してください。

- メモリカードを取り付ける場合は、カードを強く押したり、指ではじいたりしないでください。また、取り外す場合は、ロックが掛かった状態から無理に引っ張り出したりしないでください。メモリカードスロットのコネクタ部を破損するおそれがあります。
- 装置本体を移動させる場合は、メモリカードを取り外してください。移動中にカードに無理な力が加わると、メモリカードスロットのコネクタ部を破損するおそれがあります。

■ ACC LED 点灯中はメモリカードを取り外したり、電源を切斷したりしないでください。

- 装置正面パネルのACC LED点灯中はメモリカードにアクセス中です。アクセス中は、メモリカードを取り外したり、電源を切斷したりしないでください。メモリカードを破損するおそれがあります。また、一部のコマンドは、コマンド入力後メモリカードのアクセスが終了するまでにしばらく時間がかかります。アクセスが終了したことを確認の上、メモリカードの取り外しや電源の切断を行なってください。

注意

■ トランシーバにラベルなどを貼り付けたりしないでください。

- トランシーバには、メーカおよび弊社の標準品であることを示すラベルを貼り付けています。ただし、このラベルを貼り付けているのは、トランシーバの放熱や、ケージからの抜けを防止する機構の妨げにならない部分です。
放熱や抜け防止機構の妨げになるところにラベルなどを貼り付けると、トランシーバが故障したり、装置を破損したりするおそれがあります。

■ STATUS1 LED 緑点滅中は装置の電源を切斷しないでください。

- STATUS1 LED が緑点滅から緑点灯に変わるまで装置の電源を切斷しないでください。装置が故障するおそれがあります。

■ 装置およびオプション機構の持ち運び、梱包などを行なう場合は、静電気防止用のリストストラップを使用してください。

- 静電気防止用リストストラップを使用してください。静電気防止用リストストラップを使用しないで取り扱った場合、静電気により機器を損傷することがあります。

■ オプション機構の持ち運び、梱包の際は取り扱いに注意してください。

- トランシーバ、メモリカード、電源機構、およびファンユニットの持ち運び、梱包の際には、コネクタ部には手をふれないでください。また、保管する場合は静電防止袋の中に入れてください。

■ お手入れのときは

- 装置外装の汚れは、乾いたきれいな布、あるいは、布に水か中性洗剤を含ませてかたく絞ったもので、汚れた部分を拭いてください。ベンジンやシンナーなどの揮発性の有機溶剤や薬品、化学ぞうきん、殺虫剤は、変形・変色および故障の原因となることがあるので使用しないでください。

■ 長時間ご使用にならないとき

- 長期間の休みや旅行などで長時間装置をご使用にならないときは、安全のため電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

■ この装置の廃棄について

- この装置を廃棄する場合は、地方自治体の条例または規則に従い廃棄するか、地域の廃棄物処理施設にお問い合わせください。

■ 有寿命品について

- 以下に示す機器は有寿命品です。購入に関しては担当営業または保守員にお問い合わせください。
 - ・電源機構
 - ・ファンユニット

■環境条件について

- 周囲温度が異常に高い環境で使用された場合、もしくはFAN故障等によるエアフロー異常のまま使用された場合、装置内部の温度が上昇し、装置を停止する機能が働きます。

1 準備

この章では、本装置をお使いいただくために必要なものについて説明します。また、PF5200 シリーズのマニュアル体系や、本ガイドの位置づけについて説明します。

1.1 PF5200 シリーズのマニュアル体系

1.2 PF5200 シリーズのマニュアル入手方法

1.3 同梱品の確認

1.4 必要なものの準備

1.1 PF5200 シリーズのマニュアル体系

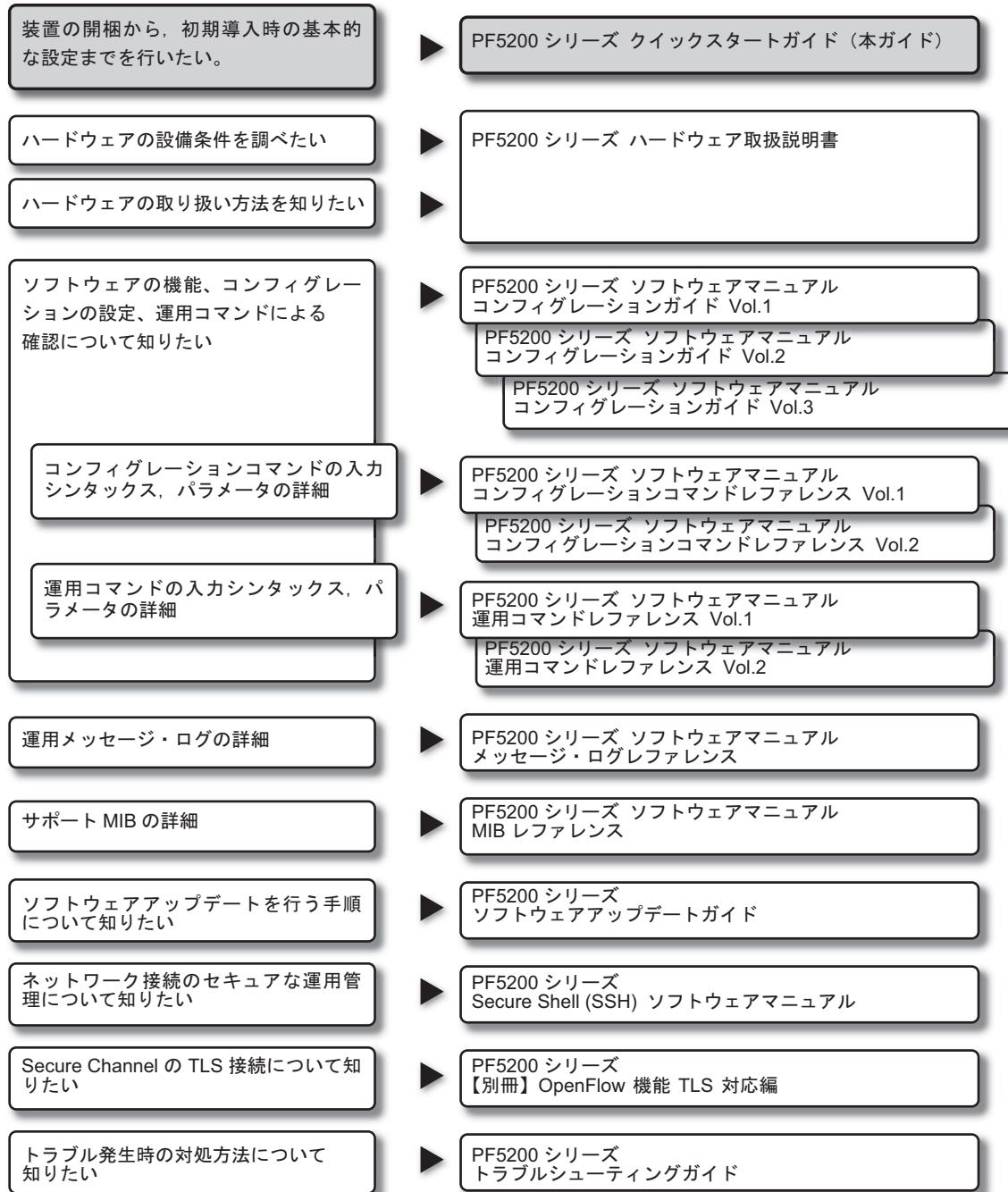
PF5200 シリーズのマニュアル体系を下記に示します。

本ガイドでは、装置を開梱してから基本的な設定を行なうまでの操作方法についてのみ説明しています。

本ガイドで説明するのは最低限必要な情報だけです。PF5200 シリーズの豊富な機能を活用していただくには、下記のマニュアルを参照してください。

● PF5200 シリーズのマニュアル体系

図 1-1 PF5200 シリーズのマニュアル体系



1.2 PF5200 シリーズのマニュアル入手方法

PF5200 シリーズのマニュアルは、装置に添付されるマニュアル CD に格納しています。

1.3 同梱品の確認

同梱品チェックリストを使い、すべての同梱品がそろっていることを確認します。

NOTE

同梱品チェックリストは、装置本体の他に、電源機構、ファンユニット、トランシーバなど
のオプションにも添付されています。オプションをご購入いただいている場合は、オプショ
ンの同梱品も確認してください。

1.4 必要なものの準備

セットアップには、本体およびオプションの他に、以下の機器を準備してください。

● セットアップ端末

「表 1-1 端末仕様」に示す仕様を満たすパーソナルコンピュータまたはワークステーションを準備してください。

表 1-1 端末仕様

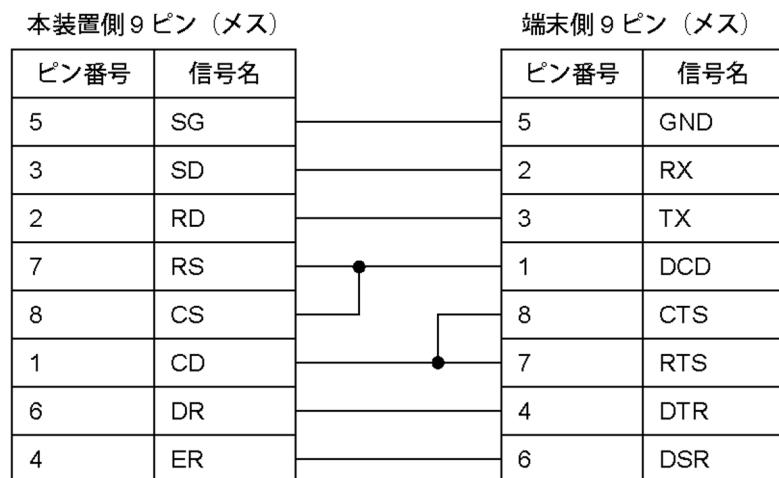
項目		仕様
通信ポート		RS-232C ポート
通信ソフト		Tera Term Pro (Version 2.3) または下記「通信設定」を満たした通信ソフト
通信設定	通信手順	ZMODEM 手順
	通信パラメータ	8 ビット、1 ストップビット、パリティ無し
	通信速度 ^{*1}	19,200bit/s, 9,600bit/s, 4,800bit/s, 2,400bit/s, 1,200bit/s

*1 工場出荷時、本装置の CONSOLE ポートの通信速度は 9,600bit/s に設定しています。

● RS-232C クロスケーブル

本装置にセットアップ端末を接続するには、RS-232C クロスケーブル（両端 D-sub9 ピン（メス）付き）を使用します。このケーブルは、一般の電気店で購入することができます。RS-232C クロスケーブルのピン配置は「図 1-2 RS-232C クロスケーブルのピン配置」を参照してください。

図 1-2 RS-232C クロスケーブルのピン配置



● インタフェースケーブル

他の機器との接続にはインターフェースケーブルが必要です。インターフェースケーブルの詳細については、「PF5200 シリーズ ハードウェア取扱説明書」を参照してください。

● AC200V 電源ケーブル

AC200V で使用する場合に必要です。AC200V 電源ケーブルの準備の詳細については、「PF5200 シリーズ ハードウェア取扱説明書」を参照してください。

2

機器の設置

この章では、装置を 19 型キャビネットラックに取り付け、電源を投入するまでの手順について説明します。

2.1 機器の設置

2.2 その他の作業

2.1 機器の設置

ここでは、装置を19型キャビネットラックに取り付け、電源を投入するまでの手順について説明します。

2.1.1 装置本体の設置

【ステップ1】 装置本体への電源機構の取り付け

次の手順で装置本体へ電源機構を取り付けます。



注意

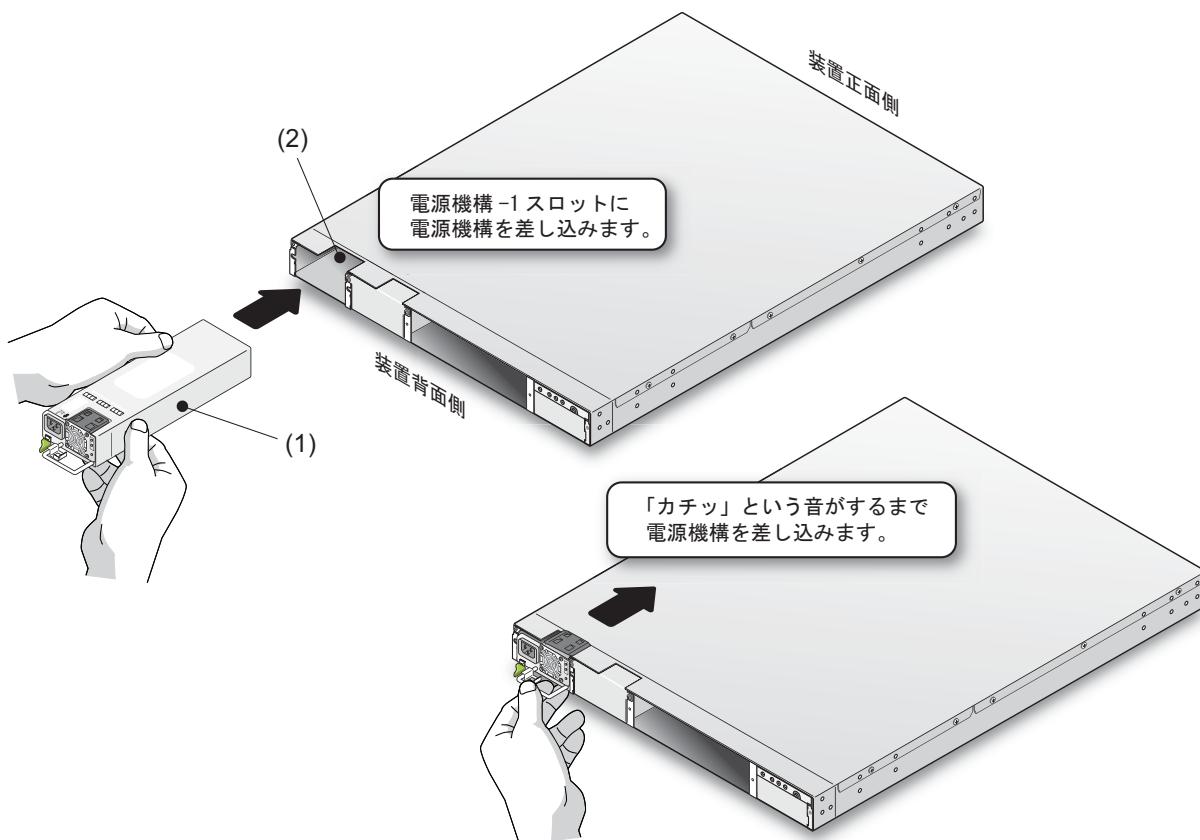
電源機構を移動させる場合は、電源機構の取っ手を持たないでください。取っ手が外れて電源機構が落下し、けがの原因となることがあります。また、変形して、火災・感電の原因となることがあります。

NOTE

以下は電源を冗長している場合の手順です。電源を冗長していない場合は、1の手順のみ実施してください。

1. 電源機構 -1 スロットに電源機構を「カチッ」と音がするまで差し込みます。

図2-1 電源機構の取り付け -1

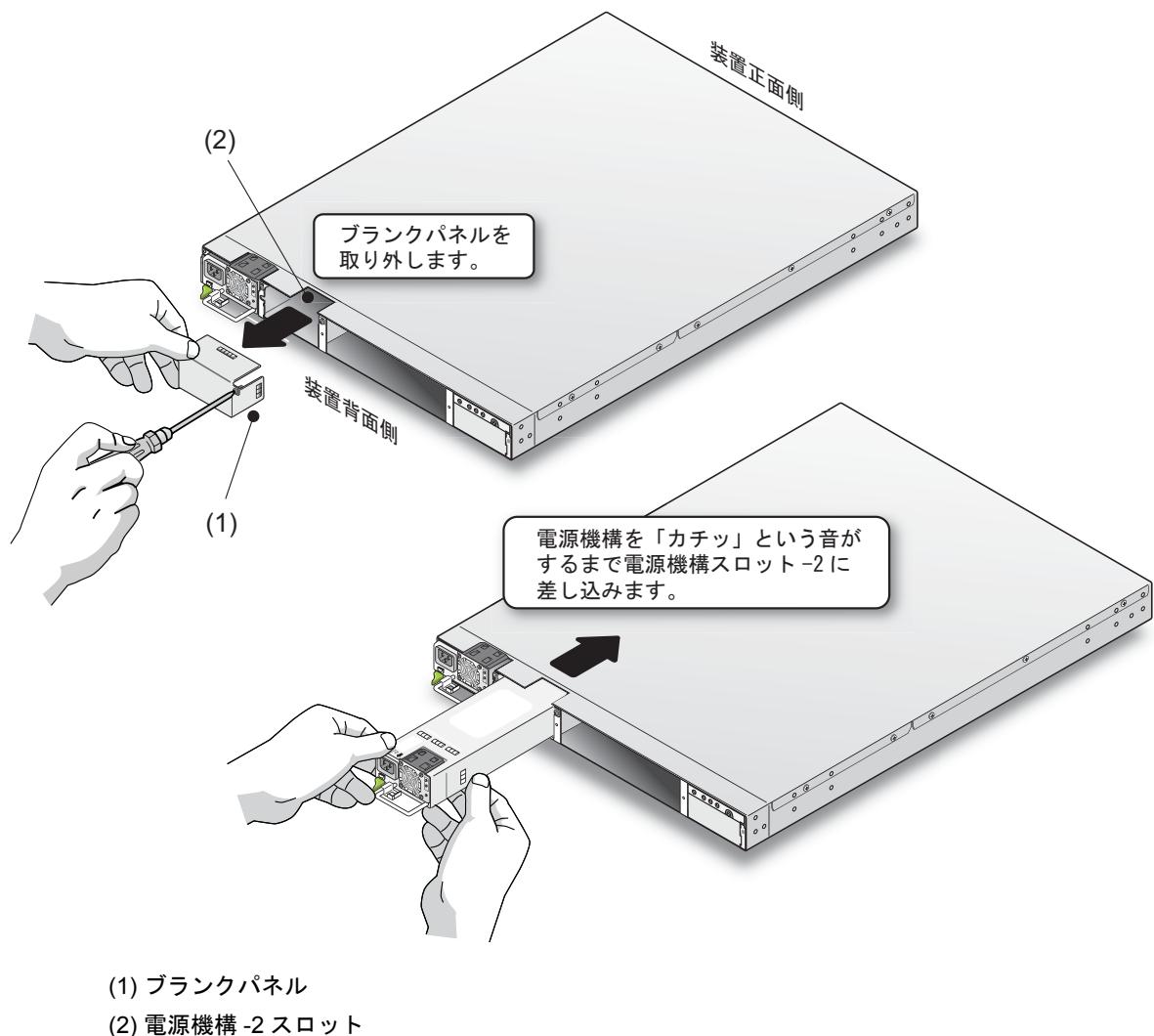


(1) 電源機構

(2) 電源機構 -1 スロット

2. 電源機構 -2 スロットに取り付けられているブランクパネルを取り外し、電源機構 -2 スロットに電源機構を「カチッ」と音がするまで差し込みます。

図 2-2 電源機構の取り付け -2

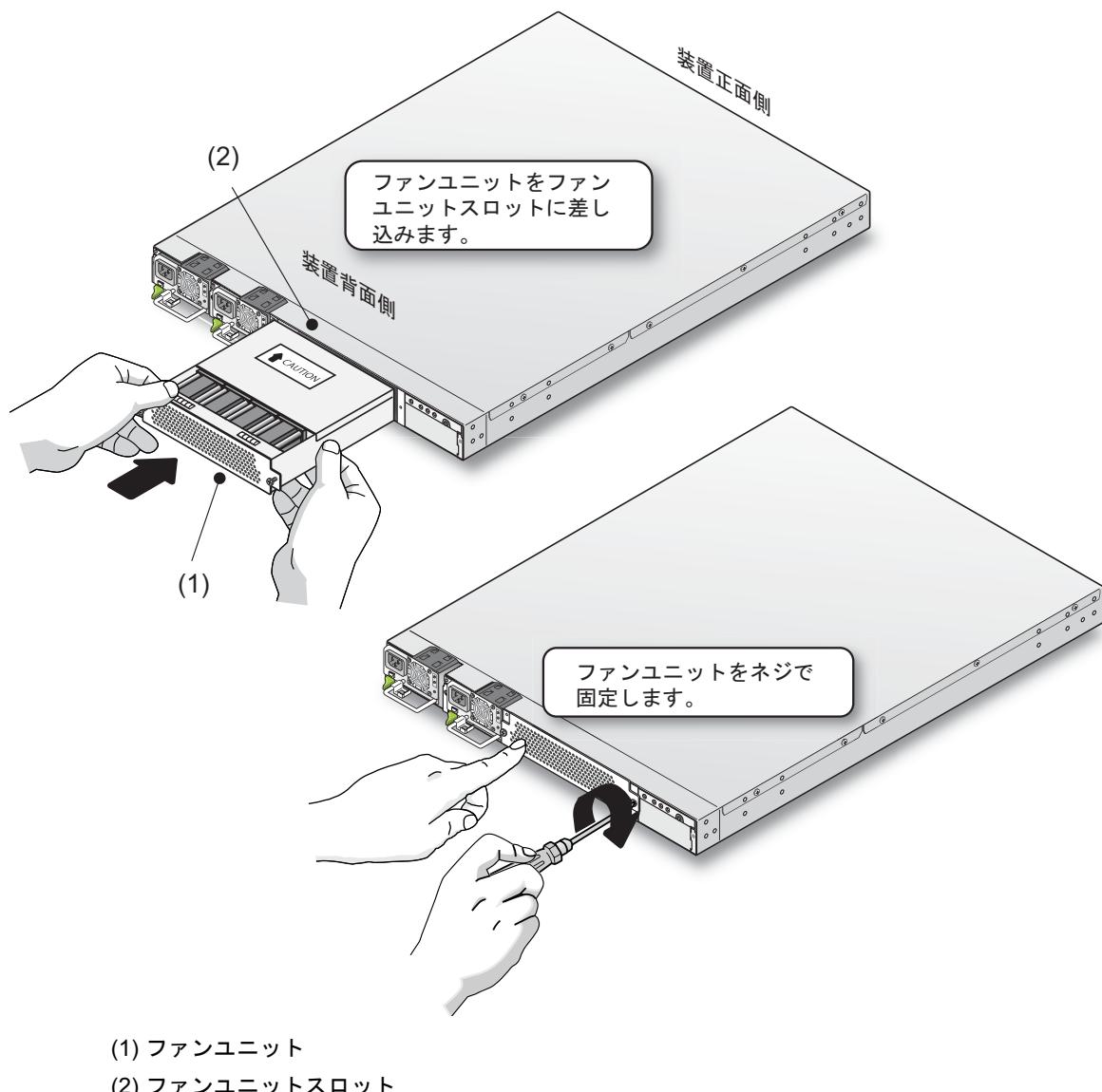


2. 機器の設置

【ステップ2】 装置本体へのファンユニットの取り付け

ファンユニットスロットにファンユニットを差し込んでネジ止めします。

図2-3 ファンユニットの取り付け



【ステップ3】 ラックへの装置本体の設置

次の手順で装置本体を19型キャビネットラックに搭載します。

⚠ 注意

装置を移動させる場合は、電源機構の取っ手を持たないでください。取っ手が外れて装置が落下し、けがの原因となることがあります。また、変形して、火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

安全のため、作業は2人以上で行なってください。

NOTE

付属のラック固定金具はM5のネジに対応しています。M5のネジに対応したラックを準備してください。

NOTE

ラック搭載時に必要な条件については「PF5200シリーズハードウェア取扱説明書」を参照してください。

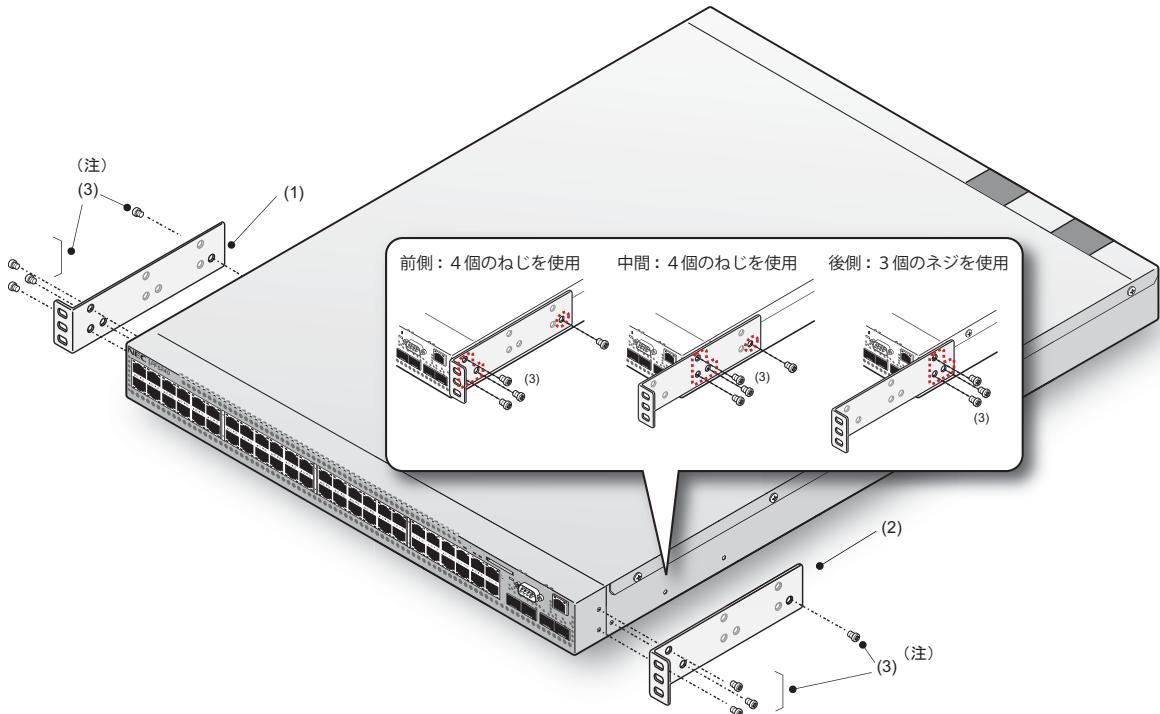
NOTE

以下はPF5240R-48T4XWをラック搭載する場合の例です。PF5240F-48T4XWをラック搭載する場合は、装置正面がラック前面にくるように搭載してください。

2. 機器の設置

- 装置本体にラック固定金具を取り付けます。

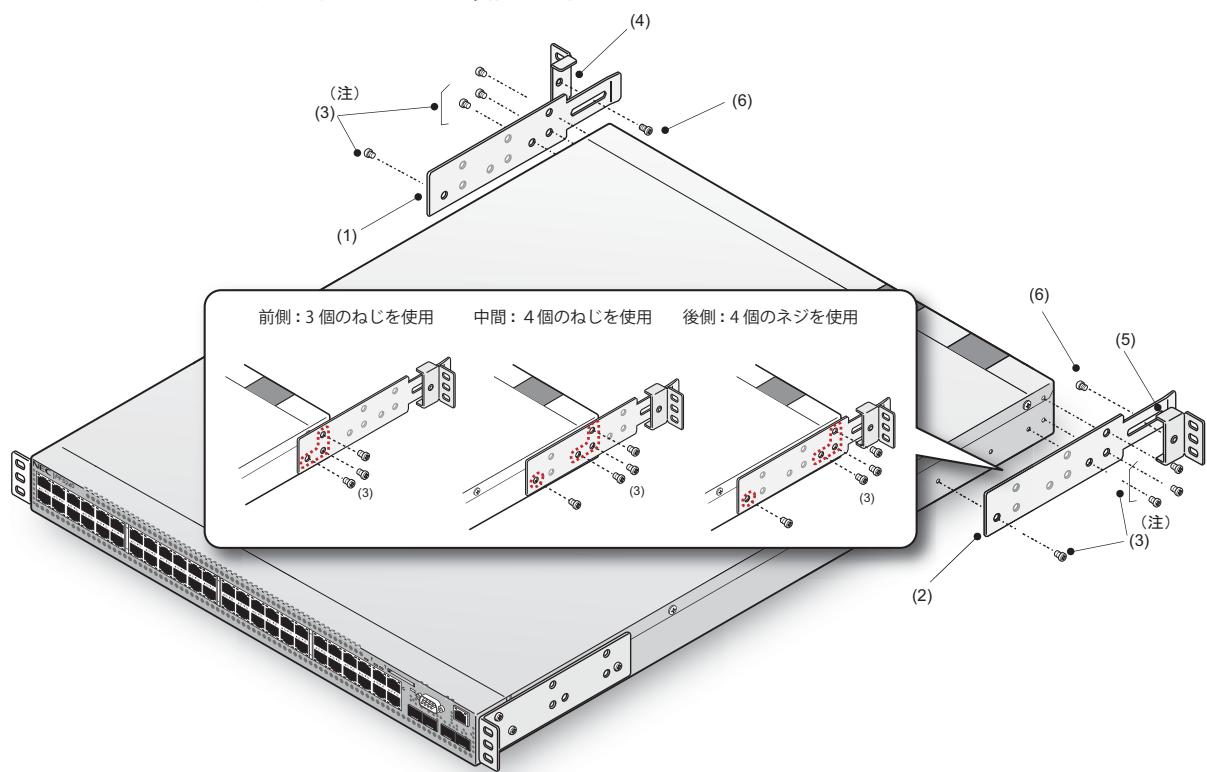
図 2-4 ラック固定金具の取り付け（装置正面側）



(注) ラックの固定金具にはネジの取り付け穴（3つ穴）が3箇所あります。ラックの奥行きに合うようラック固定金具をスライドさせ、
使用するネジの取り付け穴を変更してください。ここでは、例として「前側」のネジ穴を使用しています。

- (1) ラック固定金具 - 正面用 (L)
- (2) ラック固定金具 - 正面用 (R)
- (3) ネジ (M4 さら小ねじ × 8本)

図 2-5 ラック固定金具の取り付け（装置背面側）



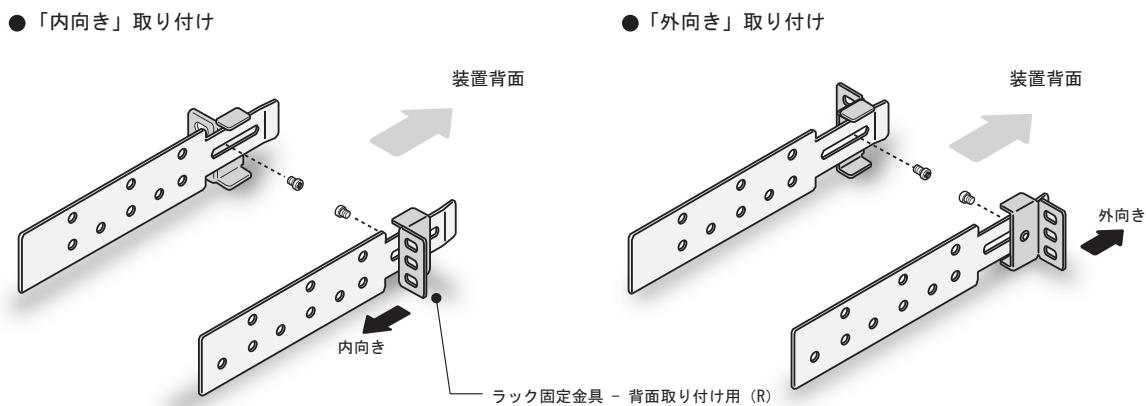
(注) ラックの固定金具にはネジの取り付け穴（3つ穴）が3箇所あります。ラックの奥行きに合うようラック固定金具をスライドさせ、使用するネジの取り付け穴を変更してください。ここでは、例として「後側」のネジ穴を使用しています。

- (1) ラック固定金具 - 背面用 (L)
- (2) ラック固定金具 - 背面用 (R)
- (3) ネジ (M4 さら小ねじ × 8 本)
- (4) ラック固定金具 - 背面取り付け用 (L)
- (5) ラック固定金具 - 背面取り付け用 (R)
- (6) ネジ (M4 座金組み込みなべ小ねじ × 2 本)

2. 機器の設置

ラック固定金具 - 背面取り付け用は、外向きにも内向きにも取り付けることができます（下図参照）。ラックの奥行きにあうよう取り付ける向きを変えて、奥行きの調整をしてください。

図 2-6 「ラック固定金具 - 背面取り付け用」の取り付け方法



NOTE

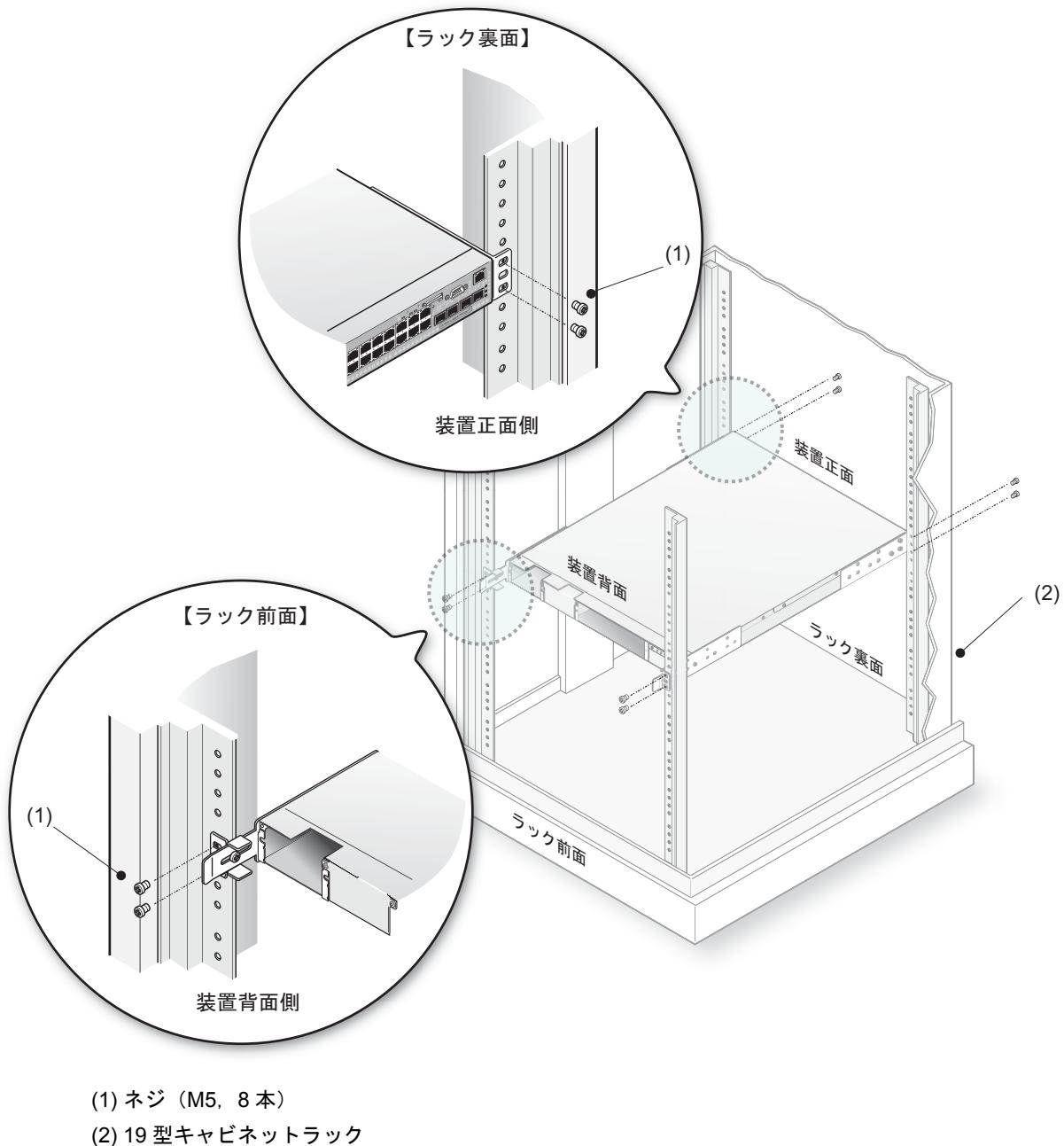
ラック固定金具を取り付けるときには、付属のネジを使用してください。

NOTE

ラック固定金具をスライドさせてもラックの奥行きに合うように装置に取り付けられない場合は、棚板を使用してください。

2. 装置本体をラックへ搭載します。(ラック裏面に装置正面がくるように搭載してください)

図 2-7 ラックへの搭載



⚠ 注意

装置をラックに搭載する場合は、装置が安定した状態にあるかを十分確認して作業してください。不安定な状態で作業した場合、落下や転倒によるけがの原因となります。

NOTE

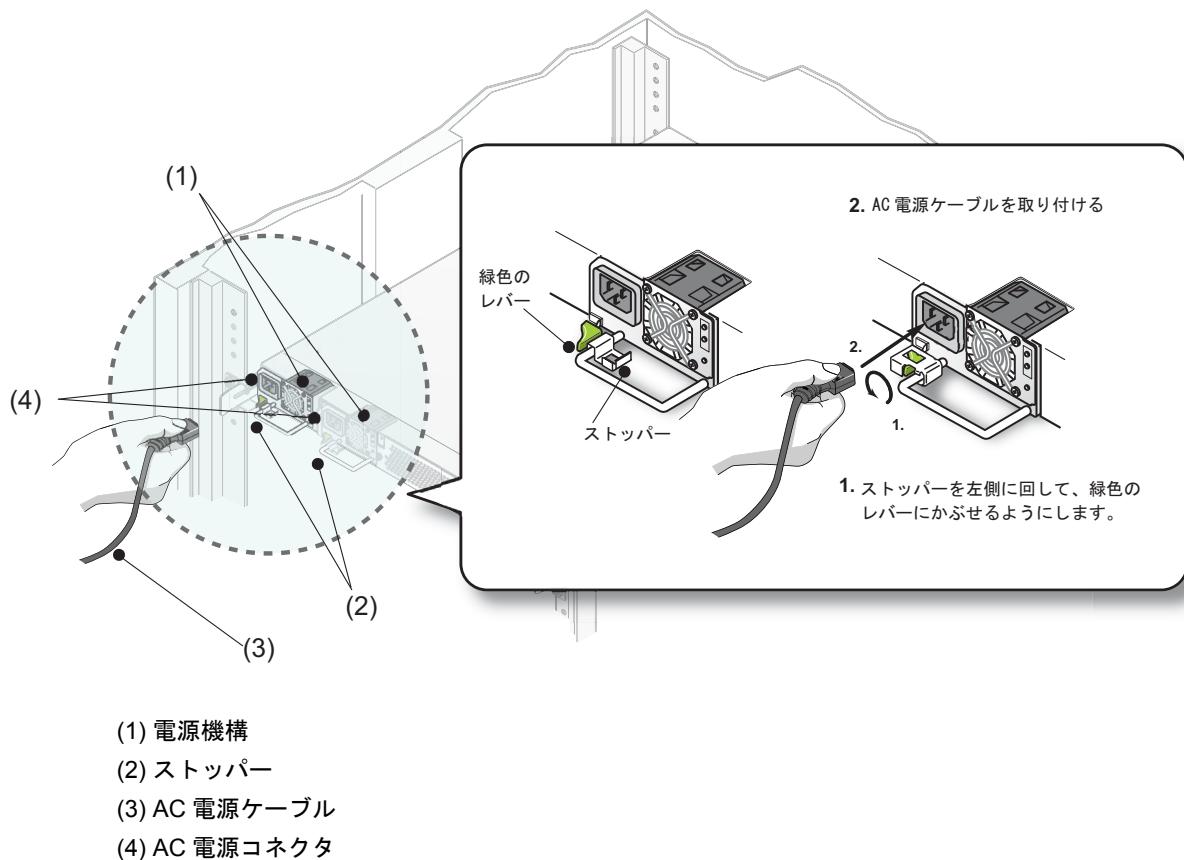
装置をラックに取り付けるときには、ラックに付属している M5 のネジを使用してください。

2. 機器の設置

【ステップ 4】 装置本体への電源ケーブルの取り付け

1. 電源機構のストッパーを左側に回して、緑色のレバーにかぶせるようにします。
2. AC 電源ケーブルを AC 電源コネクタに取り付けます。

図 2-8 AC 電源ケーブルの取り付け



!**警告**

AC100Vで使用する場合、電源ケーブルは付属のものを使用してください。付属以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。
また、付属の電源ケーブルを本装置以外で使用しないでください。本装置以外で使用した場合、火災・感電の原因となります。

!**警告**

AC200Vで使用する場合、電源ケーブルは弊社が指定する仕様のものを使用してください。それ以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

NOTE

弊社が指定する仕様の電源ケーブルについては、「PF5200 シリーズ シリーズ ハードウェア取扱説明書」を参照してください。

警告

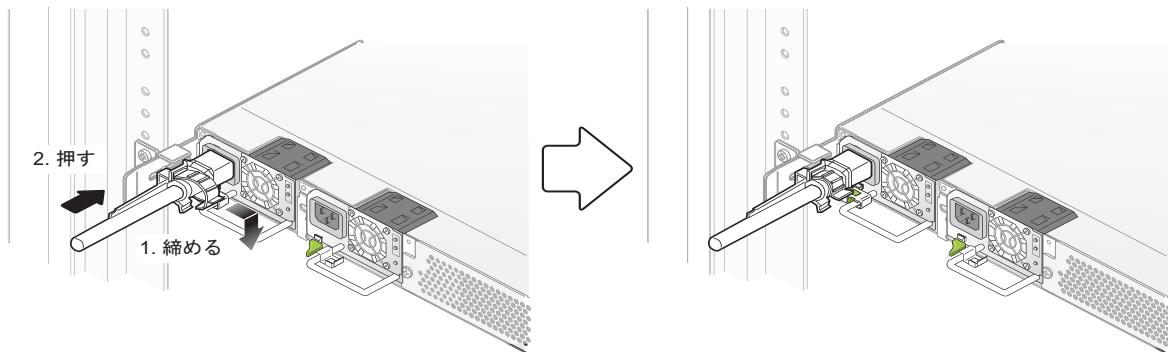
必ず接地付きのコンセントを使用してください。接地を取らずに使用すると、感電の原因となると共に、電気的雑音により、障害発生の原因となります。

NOTE

ラック搭載時は、ラック付属のケーブルホルダーで電源ケーブルを固定し、ケーブルの根元に負荷がかからないようにしてください。

3. ケーブルクランプで電源ケーブルのコネクタをクランプします。

図 2-9 電源ケーブルのクランプ

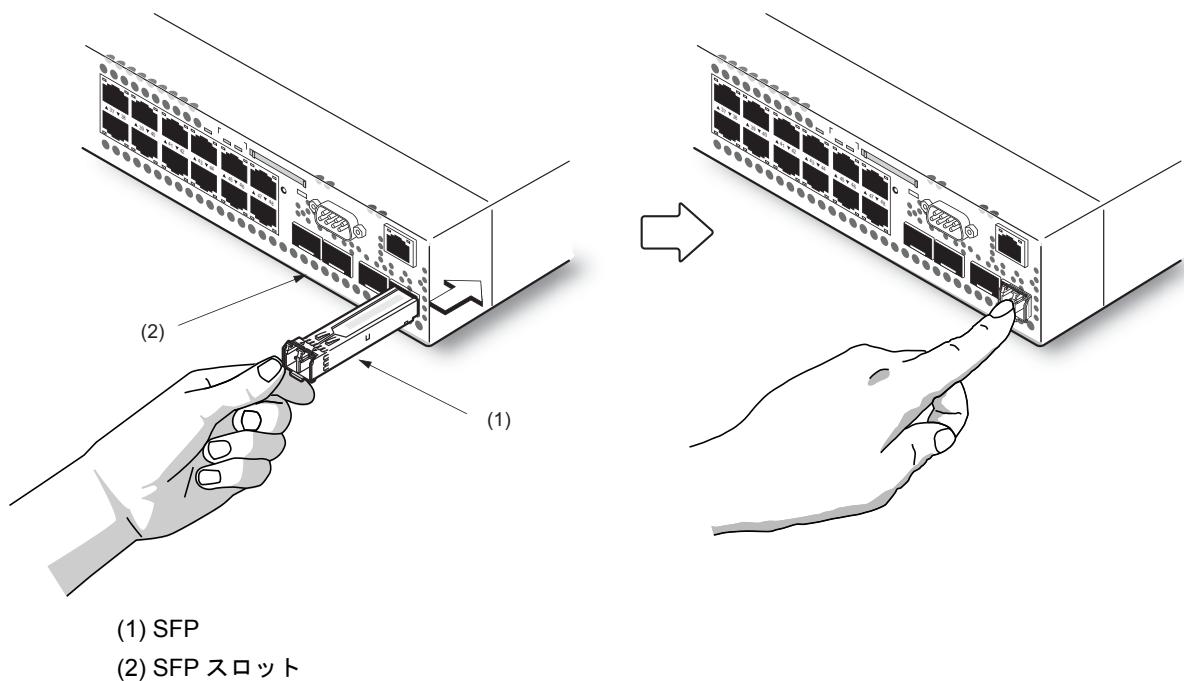


2. 機器の設置

【ステップ 5】 トランシーバの取り付け

SFP および SFP+ をご購入いただいている場合は SFP と SFP+ を取り付けます。
レバーを図のように起こしたまま、「カチッ」と音がするまで SFP を差し込みます。

図 2-10 トランシーバの取り付け

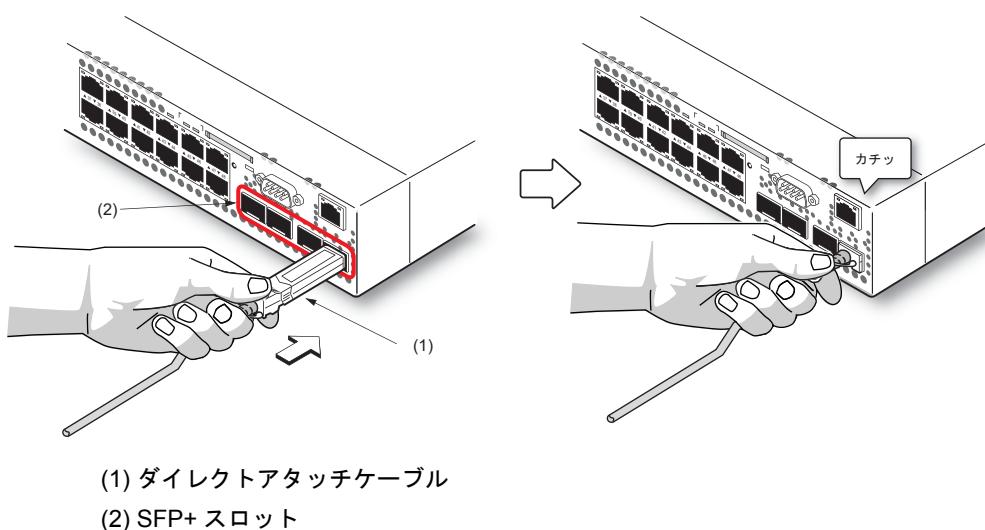


NOTE

SFP+ の場合も同様に、SFP+ スロットに取り付けてください。

ダイレクトアタッチケーブルをご購入いただいている場合はダイレクトアタッチケーブルを取り付けます。
図のように、「カチッ」と音がするまでコネクタを差し込みます。

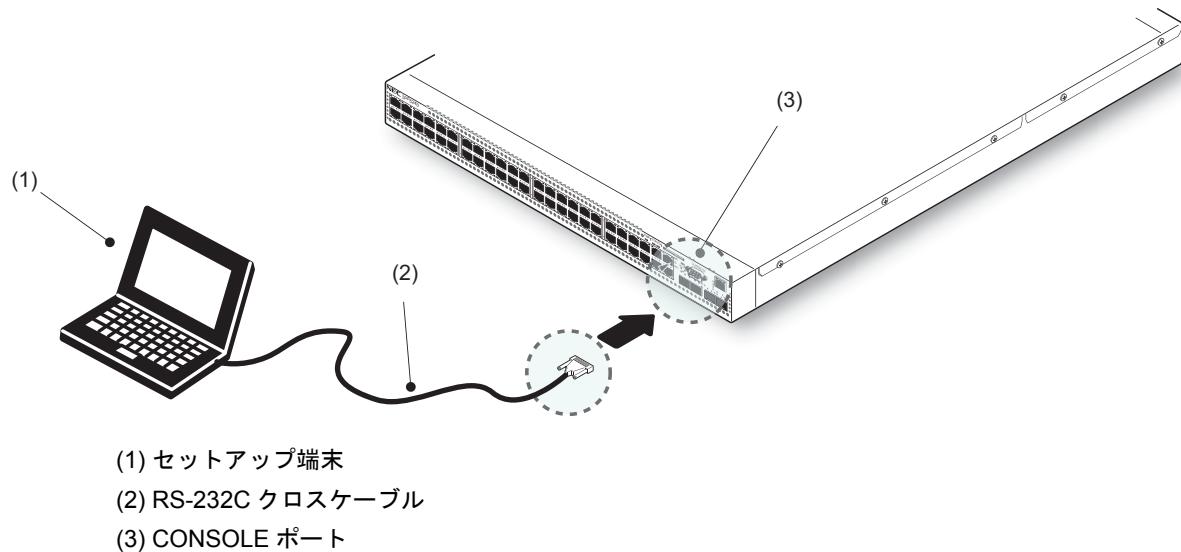
図 2-11 ダイレクトアタッチケーブルの取り付け



【ステップ 6】 セットアップ端末の接続

1. 本装置の CONSOLE ポートにセットアップ端末を接続します。セットアップ端末を接続するには、RS-232C クロスケーブルを使用します。

図 2-12 セットアップ端末の接続



NOTE

接続後はネジを締めてください。また、しっかりと固定されていることを確認してください。

NOTE

RS-232C クロスケーブルの詳細については、「1.4 必要なものの準備」を参照してください。

2. セットアップ端末を起動します。
3. 通信ソフトを起動します。
4. 通信ソフトの設定を行ないます。

NOTE

通信パラメータについては、「1.4 必要なものの準備」を参照してください。また、通信ソフトの設定方法については、通信ソフトのマニュアルを参照してください。

2. 機器の設置

【ステップ7】 インタフェースケーブルの取り付け

インターフェースポートにインターフェースケーブルを取り付けます。

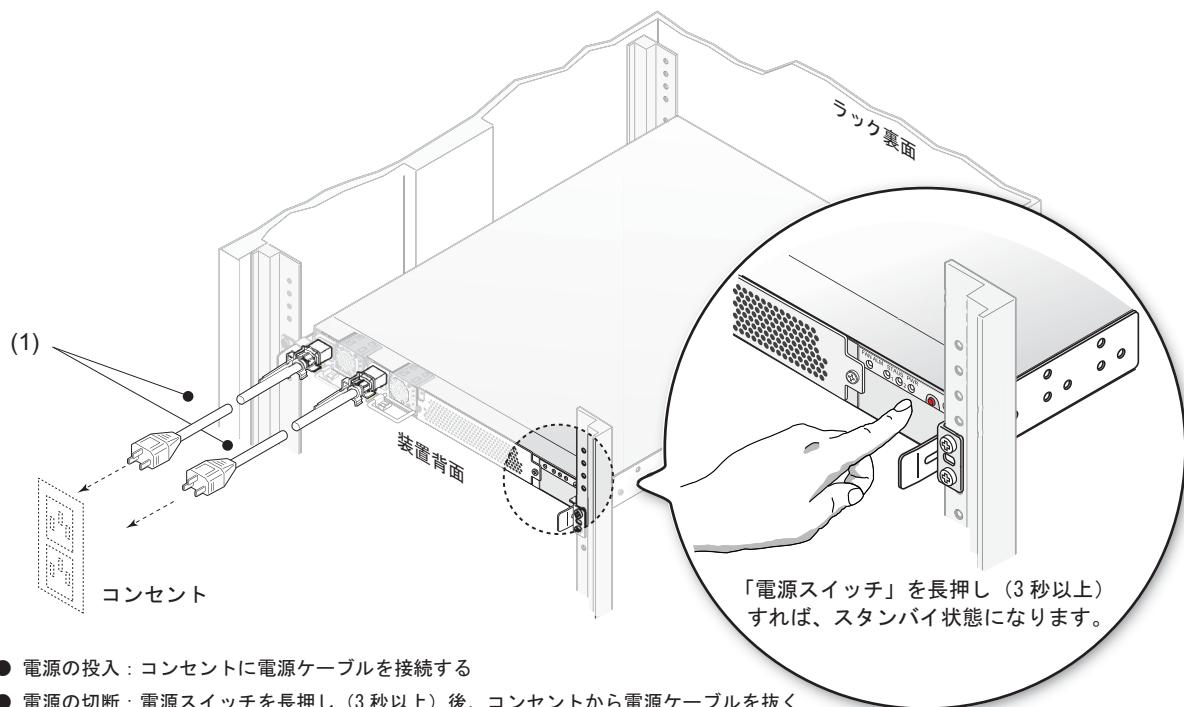
【ステップ8】 装置本体の電源の投入

NOTE

以下は電源を冗長している場合の手順です。電源を冗長していない場合は、1～2の手順を実施してください。

1. 本装置のすべての電源機構に電源ケーブルが接続されていることを確認します。
2. 電源機構 -1 スロットの電源ケーブルをコンセントに挿します。
3. 電源機構 -2 スロットの電源ケーブルをコンセントに挿します。

図 2-13 電源の投入

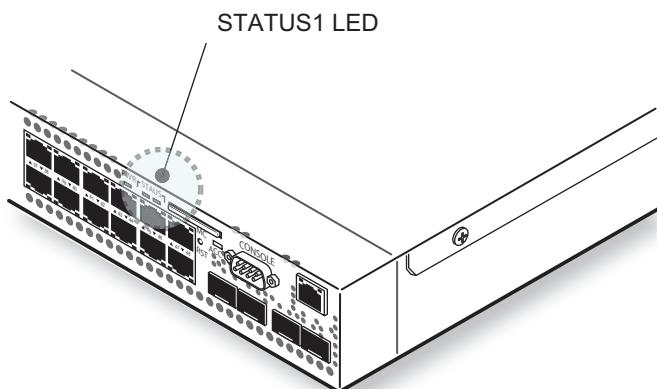


(1) 電源ケーブル

【ステップ9】 LED の確認

装置正面パネルの STATUS1 LED が緑点灯すると、装置が立ち上がったことを表わします。

図 2-14 LED の確認

**NOTE**

装置が立ち上がるまでの経過については、「2.2 その他の作業」を参照してください。

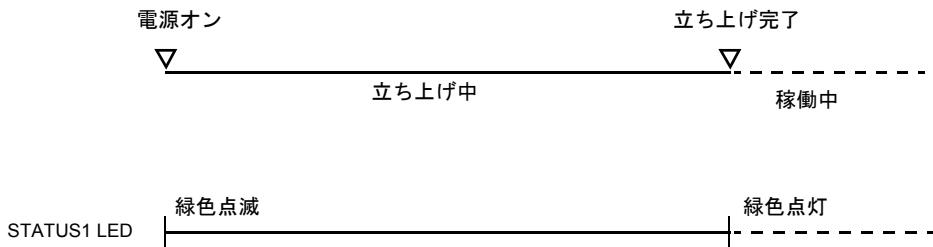
NOTE

STATUS1 LED が赤点滅または赤点灯した場合、装置に障害が発生しています。装置に障害が発生した場合は、「PF5200 シリーズ ランプ状況説明」を参照して対処してください。

2.2 その他の作業

● 装置が立ち上がるまでの経過を確認する

電源を投入してから装置が立ち上がるまでの経過を説明します。



1. 電源投入後、装置正面パネルの STATUS1 LED が緑色に点滅し、立ち上げ処理を開始します。
2. 装置が立ち上がるごとに、STATUS1 LED が緑色に点灯します。

● メモリカードについて

メモリカードは、以下のような場合に使用します。

- 運用情報のバックアップ
- 障害発生時、障害情報を保存するとき
- ソフトウェアをアップデートするとき

メモリカードの取り付けおよび取り外しについては、「PF5200 シリーズ ハードウェア取扱説明書」を参照してください。

● 装置本体およびオプションの詳細について

装置本体およびオプションの詳細と取り扱いについては、「PF5200 シリーズ ハードウェア取扱説明書」を参照してください。

3

初期導入時に必要な操作

この章では、初期導入時に必要な時刻の設定、装置管理者モードのパスワード設定、ユーザ ID の追加と削除について説明します。

-
- 3.1 コマンド入力モードの概要
 - 3.2 初期導入時の操作の概要
 - 3.3 ログイン
 - 3.4 装置管理者モードのパスワード設定
 - 3.5 ユーザ ID の追加と「operator」の削除
 - 3.6 時刻の設定
-

3.1 コマンド入力モードの概要

本装置のコマンドラインインターフェース（CLI）のコマンド入力モードには、一般ユーザモード、装置管理者モード、およびコンフィグレーションコマンドモードがあります。

本装置のコンフィグレーションを設定・変更したり、装置の状態を参照したりする場合、適切なコマンド入力モードに遷移し、コンフィグレーションや運用コマンドを入力する必要があります。

それぞれのコマンド入力モードの特徴は、以下のとおりです。各コマンド入力モードへのアクセス方法と終了方法については、「表 3-1 コマンド入力モードについて」を参照してください。

表 3-1 コマンド入力モードについて

コマンド入力モード	モード移行コマンド	プロンプト	終了方法	説明
一般ユーザモード	login: <ユーザ ID>	>	> logout	configure, adduser コマンドなど一部のコマンドを除く、運用コマンドを使用することができます。
装置管理者モード	> enable	#	# disable	すべての運用コマンドを使用することができます。
コンフィグレーションコマンドモード	# configure	(config)#	(config)# exit	すべてのコンフィグレーションコマンドを使用することができます。

● 一般ユーザモード

本装置にログインした状態は、一般ユーザモードです。

一般ユーザモードでは、一部のコマンドを除く運用コマンドを実行することができます。

ユーザアカウントの新規登録や削除およびコンフィグレーションコマンドモードに移行する configure コマンドは、一般ユーザモードでは実行することができません。装置管理者モードで実行する必要があります。

● 装置管理者モード

一般ユーザモードで enable コマンドを入力すると、装置管理者モードに移行します。

装置管理者モードでは、すべての運用コマンドを使用することができます。

初期導入時は、enable コマンドにパスワードが設定されていません。セキュリティの低下を防ぐため、enable コマンドにパスワードを設定し、装置管理者モードを使用するユーザを制限しておくことを推奨します。

● コンフィグレーションコマンドモード

装置管理者モードで `configure` コマンドを入力するとコンフィグレーションコマンドモードになります。コンフィグレーションコマンドモードにおいてコンフィグレーションコマンドを使用することにより、本装置のコンフィグレーションを設定・変更することができます。

NOTE

コンフィグレーションコマンドモードは階層構造になっています。
上記の `(config)#` をグローバルコンフィグレーションモードと呼び、その下にコマンドの種類により分類された入力モードがあります。コンフィグレーションコマンドモードの詳細については、「ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド」を参照してください。

NOTE

運用コマンドがどのコマンド入力モードで実行することができるかは、「ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス」に記載されています。
また、コンフィグレーションコマンドがどの入力モードで実行することができるかは、「ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス」に記載されています。

3.2 初期導入時の操作の概要

初期導入時に必要な操作の概要を以下に示します。

各操作の詳細については次節以降を参照してください。

NOTE

以下は、初期導入時に最低限必要な操作です。
その後の操作の詳細については、「4.1 本装置の操作の詳細について」に記載されたマニュアルを参照してください。

(1) ログイン

本装置にログインします。初期導入時に設定されているユーザ ID 「operator」を使用します（「operator」にはパスワードが設定されていないため、認証なしでログインできます）。

(2) 装置管理者モードのパスワード設定

enable コマンドで装置管理者モードに移行する際のパスワードを設定します。初期導入時、このパスワードは設定されていません。セキュリティの低下を防ぐため、装置管理者モードのパスワードを設定してください。

(3) ユーザ ID の追加と「operator」の削除

新しくユーザ ID を作成します。

また、初期導入時に設定されているログインユーザ 「operator」を運用中のログインユーザとして使用しない場合は、セキュリティの低下を防ぐため、新しいログインユーザを作成したあとに rmuser コマンドで削除することを推奨します。

(4) 時刻の設定

タイムゾーンおよび時刻の設定を行ないます。初期導入時、時刻は設定されていません。時刻は障害情報を採取する場合に重要な情報ですので、正確な時刻を設定してください。

NOTE

本装置は、一度時刻を設定すると、電源を切断しても約 10 日間は設定を保持できます。10 日以上経過した場合は、次の電源投入時に時刻を再設定する必要があります。

3.3 ログイン

装置を起動すると、「login」プロンプトが表示されます。「login」プロンプトの後に、ユーザ ID を入力して装置にログインします。

```
login: operator ..... ユーザ ID 「operator」を入力します。  
Copyright (C) 2010 NEC Corporation. All rights reserved.  
>
```

NOTE

以下の説明では、ソフトウェアのバージョンによって、表示される内容が多少異なる場合がありますが、基本的な操作方法に変わりはありません。

3.4 装置管理者モードのパスワード設定

装置管理者モードのパスワードを設定します。

```
> enable ..... 装置管理者モードに移行します。  
# password enable-mode ..... 装置管理者モードのパスワードが設定できるようにします。  
Changing local password for admin.  
New password: ***** ..... 装置管理者モードのパスワードを設定します。  
Retype new password: ***** ..... 確認のため、再度パスワードを入力します。  
#
```

NOTE

パスワードの文字数は、6 文字以上を設定することをお勧めします。6 文字未満の文字を入力した場合はエラー表示をしますが、再度入力すれば設定できます。また、パスワードの文字数は 128 文字以下を設定してください。129 文字以上入力した場合は、128 文字までがパスワードとして登録されます。なお、パスワードには英大文字、数字または記号を含むことをお勧めします。すべて英小文字のパスワードを入力した場合は、エラー表示をしますが再度入力すれば設定できます。

3.5 ユーザ ID の追加と「operator」の削除

【ステップ1】 ユーザ ID の作成とログインパスワードの設定

新しくユーザ ID を作成し、ログインパスワードを設定します。

以下の例では、新規ユーザ ID 「newuser」 の作成とログインパスワードの設定について説明します。

```
# adduser newuser ..... 新しくユーザ ID 「newuser」 を設定します。
User(empty password) add done. Please setting password.
Changing local password for newuser.
New password: ***** ..... ユーザ ID 「newuser」 にログインパスワードを設定します。
Retype new password: ***** ..... 確認のため、再度パスワードを入力します。
# disable ..... 一般ユーザモードに戻ります。
> logout ..... ログアウトします。
```

NOTE

パスワードの文字数は、6 文字以上を設定することをお勧めします。6 文字未満の文字を入力した場合はエラー表示をしますが、再度入力すれば設定できます。また、パスワードの文字数は 128 文字以下を設定してください。129 文字以上入力した場合は、128 文字までがパスワードとして登録されます。なお、パスワードには英大文字、数字または記号を含むことをお勧めします。すべて英小文字のパスワードを入力した場合は、エラー表示をしますが再度入力すれば設定できます。

【ステップ2】 ユーザ ID 「operator」 の削除

初期導入時に設定されているユーザ ID 「operator」 を削除します。

```
login: newuser ..... 新しく作成したユーザ ID 「newuser」 でログインします。
Password: ***** ..... ログインパスワードを入力します。(ステップ1で設定したパスワードを入力します)。

Copyright (C) 2010 NEC Corporation. All rights reserved.

> enable ..... 装置管理者モードになります。
Password: ***** ..... 装置管理者モードのパスワードを入力します。
# rmuser operator ..... 初期導入時に設定されているユーザ ID 「operator」 を削除します。
Delete user 'operator'? (y/n): y
#
```

3.6 時刻の設定

タイムゾーンと時刻を設定します。

以下の例では、日本時間で時刻を「2010年12月1日15時30分」に設定する場合の手順を説明します。

```
# configure ..... コンフィグレーションコマンドモードに切り替えます。  
(config)# clock timezone JST +9 ..... タイムゾーンにJST, UTCからのオフセットを+9に設定します。  
!(config)# save ..... タイムゾーンの設定を保存します。  
(config)# exit ..... 装置管理者モードに戻ります。  
# set clock 1012011530 ..... 日付と時刻（年月日時分）をそれぞれ2桁の値で入力します。  
Wed Dec 1 15:30:00 JST 2010 ..... 設定された時刻が表示されます。  
# disable ..... 一般ユーザモードに戻ります。  
> logout ..... ログアウトします。
```

NOTE

コンフィグレーションが変更されると、プロンプトの先頭に「!」が表示されます。コンフィグレーションを保存すると「!」が消えます。

NOTE

本装置は、一度時刻を設定すると、電源を切断しても約10日間は設定を保持できます。10日以上経過した場合は、次の電源投入時に時刻を再設定する必要があります。

NOTE

タイムゾーンの設定は、電源を切断してもコンフィグレーションに保持されます。10日以上経過した場合でも、再設定は不要です。

以上で、初期導入時に必要な時刻の設定、装置管理者モードのパスワード設定、ユーザIDの追加と削除を終了します。

NOTE

上記の操作を行なった後の運用管理およびコンフィグレーションの設定については、「4 その後の作業」に記載されたマニュアルを参照してください。

4 その後の作業

この章では、本装置に詳細な設定を行なう場合や、運用状態の確認、トラブル発生時に参照するマニュアルについて説明しています。

4.1 本装置の操作の詳細について

4.2 トラブルシート

4.1 本装置の操作の詳細について

本ガイドでは、初期導入時に最低限必要な操作のみを説明しています。

本装置の豊富な機能は、運用管理およびコンフィグレーションの設定を行なうことでご活用いただけます。本ガイドをお読みになった後は、お客様のシステムに合わせた運用管理およびコンフィグレーションの設定を行なってください。

なお、運用管理およびコンフィグレーションの設定の詳細については、「表 4-1 運用管理とコンフィグレーションの設定について」のマニュアルを参照してください。

また、運用コマンドの詳細については「表 4-2 運用コマンドの詳細について」のマニュアルを、コンフィグレーションコマンドの詳細については「表 4-3 コンフィグレーションコマンドの詳細について」のマニュアルを参照してください。

表 4-1 運用管理とコンフィグレーションの設定について

シリーズ名	参照するマニュアル
PF5200 シリーズ	PF5200 シリーズ ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol. 1
	PF5200 シリーズ ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol. 2
	PF5200 シリーズ ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol. 3

表 4-2 運用コマンドの詳細について

シリーズ名	参照するマニュアル
PF5200 シリーズ	PF5200 シリーズ ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス Vol. 1
	PF5200 シリーズ ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス Vol. 2

表 4-3 コンフィグレーションコマンドの詳細について

シリーズ名	参照するマニュアル
PF5200 シリーズ	PF5200 シリーズ ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 1
	PF5200 シリーズ ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 2

NOTE

コンフィグレーションの設定を行なった後は、運用情報のバックアップを行なってください。
バックアップを行なっておくと、障害などで装置を交換した後、運用情報の復旧を簡単に行なうことができます。
バックアップについては、「PF5200 シリーズ ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.1 11. 装置の管理」を参照してください。

4.2 トラブルシュート

装置にトラブルが発生した場合には、以下のマニュアルを参照して対処してください。

表 4-4 トラブルと対処方法について

シリーズ名	参照するマニュアル
PF5200 シリーズ	PF5200 シリーズ トラブルシューティングガイド

